

KEY WORDS: 交流及び共同学習 学校間交流 授業プランニングシート

本研究では、中学校と特別支援学校の「交流及び共同学習」（学校間交流）における目的や意義、授業づくりで重要な要素を視覚化して教員が共有することができる「授業プランニングシート」（特別支援学校版、中学校版）を開発する。また、「授業プランニングシート」と思考ツールを用いた校内研修を行い、その効果について検討する。

1. 対象：A 特別支援学校の中学部教員（19 名）

2. 校内研修による実践：開発した「授業プランニングシート」（表2、表3）を活用して、A 特別支援学校（20XX 年9月）、B 中学校（20XX 年10月）の教員を対象に実施した。

3. 分析方法

1) 効果の測定：A 特別支援学校と B 中学校の教員を対象とした校内研修後に質問紙調査を実施した。4 段階尺度を用いて平均値を算出した。

2)倫理的配慮：協力校の学校長、校内研修に参加した教員に対して研究内容や倫理的な配慮を説明し、同意を得た。また、個人情報保護にも配慮した上で進めていった。

1)授業プランニングシートの開発と校内研修の流れ：「授業プランニングシート」は、交流及び共同学習（学校間交流）における目的や意義の共有、授業計画を円滑に行うとともに、自校や相手校教員の考えを融合させて合意形成かつ連携を図っていくことも目標としている。本シートは、全14項目で構成されており、学校の特性に合わせて特別支援学校版（表2）と中学校版（表3）の2種類を開発した。特別支援学校版と中学校版で内容が異なる3項目は、「学校間交流で学んでほしいこと」「協力・協働」「相談」に関する項目である。「学校間交流で学んでほしいこと」（中学校版）は、障害理解や相互理解、道徳に関する項目で構成されている。「協力・協働に関する項目」（中学校版）は、障害のある生徒への理解や関わり方、事前学習の進め方の項目を盛り込んだ。また、「相談に関する項目」（中学校版）では、授業の構成、教材・教具に関する項目、中学校教員が困っていることを自

由記述で書き込む欄を設けて具体的に特別支援学校教員と協働して取り組んでいくことを明確にすることができるものにした。また、交流及び共同学習（学校間交流）の授業づくりに関わる項目（11項目）も設けていった。

校内研修は、1時間の設定で行った。5人程度の少人数のグループを編成して話し合いを進めていった。校内研修は、下記の流れで進めていった。【①マングラシートの記入、授業題材例一覧を使ってアイデアを出す】【②グループで話し合い授業のアイデアをまとめる】【③相手校の教員に協力・相談したいことを話し合う】【④グループごとに発表】

2) 校内研修後の質問紙調査の結果：A 特別支援学校 (N=19) と B 中学校 (N=20) の教員を対象とした校内研修後に授業プランニングシートの活用に関する質問紙調査を実施して、平均値を算出し比較した。結果は、図1のとおりである。

	質問項目	得点 (N=19) A特約16校 B中学校	得点 (N=20) B中学校
1	学校間交流の推進づくりに役立つツールである。	3. 2	3. 5
2	学習指導要領での目的やねらいなどの重要な点を伝えることができる。	3. 0	3. 5
3	母校の生徒達に学校間交流で学んでほしいことや願いつつ考えることができる。	3. 5	3. 6 5
4	自分でも学校間交流の推進を計画していくことができる。	3. 0	2. 8
5	どのような教材・教具を用意すればいいかが分かる。	2. 8	2. 7
6	相手の校に先生に協力してほしいことについて気づくことができる。	3. 1	3. 1
7	どのようなことで困っている、相談したいことなどが分かる。	2. 9	3. 2
8	「授業プランニングシート」を個で書き込んだ後に、教員間で話し合ったり授業内容をさらに一層深まる。	3. 5	3. 6
9	「学校間交流の授業題材一覧」があることによって「授業プランニングシート」が書きやすくなる。	3. 5	3. 6 8

A 特別支援学校の結果では、交流及び共同学習（学校間交流）で自校の生徒に学んでほしいことや「授業プランニングシート」と思考ツールを活用した項目に関する高い得点が示された。B 中学校の全体の得点は、A 特別支援学校よりも高い数値であった。結果から中学校における交流及び共同学習（学校間交流）の授業を計画していく際に「授業プランニングシート」と思考ツールを活用していくことの意義は大きく効果が高いと考える。経験の無い教員にとっては、特別支援学校との交流及び共同学習（学校間交流）について具体的な授業のイメージを持つことが難しいと推測する。その上で「授業プランニングシート」と思考ツールを活用した校内研修によって経験のある教員と経験の無い教員が、話し合うことで授業づくりの核が形成されて、共通認識を持つことができることや教員間連携につながると考える。

今後は、授業プランニングシートを使った特別支援学校と中学校との学校間交流の授業実践を積み重ねていく中でシートの修正と改善していき、互いの教員がより活用しやすいものにしていくことが求められる。

[illegible]

『新編 国語』と『新編 英語』のアンダーライン (小笠原)	
1. 新編 国語のアンダーライン	<p>① 国語のアンダーラインは、国語の基礎となる語彙・文法・表現の範囲に限定される。</p> <p>② 国語のアンダーラインは、国語の基礎となる語彙・文法・表現の範囲に限定される。</p> <p>③ 国語のアンダーラインは、国語の基礎となる語彙・文法・表現の範囲に限定される。</p> <p>④ 国語のアンダーラインは、国語の基礎となる語彙・文法・表現の範囲に限定される。</p> <p>⑤ 国語のアンダーラインは、国語の基礎となる語彙・文法・表現の範囲に限定される。</p>
2. 新編 英語のアンダーライン	<p>① 英語のアンダーラインは、英語の基礎となる語彙・文法・表現の範囲に限定される。</p> <p>② 英語のアンダーラインは、英語の基礎となる語彙・文法・表現の範囲に限定される。</p> <p>③ 英語のアンダーラインは、英語の基礎となる語彙・文法・表現の範囲に限定される。</p> <p>④ 英語のアンダーラインは、英語の基礎となる語彙・文法・表現の範囲に限定される。</p> <p>⑤ 英語のアンダーラインは、英語の基礎となる語彙・文法・表現の範囲に限定される。</p>